
国民の漫画

吉野水月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

国民の漫画

【Nコード】

N0658W

【作者名】

吉野水月

【あらすじ】

とある漫画家は描いた。自分自身の信念のために。その顛末は？

あるところに漫画家がいた。

「今の漫画は過激なのがすぎる。暴力や性描写、無意味な残虐さ。ただ扇情的でフェチなだけの萌え。作品はアホなオタクの玩具になっってしまった。こんなのはおかしい。郷土と家族を愛し、皆で助け合い、伝統に誇りを持ち、毎日を生きる、少年少女の漫画を描こう！」

漫画家は心血を注いだ作品を持ち、出版社回りをはじめた。

「話がオチていない。もっと派手なウリが欲しい」

大手少年漫画出版社のいかにも仕事の出来る男風イケメン編集者は原稿を仔細らしげに見た後、抛ってよこした。

「暴力やエロ、萌えか腐がないと今時売れない」

中堅オタク系出版社のデブ編集者はポテチで油塗れになった指で漫画家の原稿を汚した。

「伝統的な価値観で少女をしばっている。女が描けてないオタクの妄想の少女。キモい」

小規模少女漫画雑誌のフェミ女編集者は冷笑し原稿をパタパタと叩いた。

「草の根ファシズムだよ。いまどき、愛国心なんておかしい」

左翼系漫画出版社のインテリ髭眼鏡はゴミを放るように原稿を突き返した。

ようやく何かを勘違いしたような小さな文芸出版社から出してもらい、そこそこは売れた。しかし、あくまで、そこそこでしかなかった。数年後、アニメ化もされたが、2話以降は作画崩壊、主演の新人アイドル声優がギシアンしている動画がネットに流出、監督が「今のオタクは萌えばかり求める馬鹿」とブログが炎上、アニメは、

DVDにもならなかった。

「。。。はオワコン」と言い回しだけが瞬間風速的に流行った。漫画家に仕事はこなくなり、廃業せざるを得なかった。

数年後、暴力的な民兵組織に支えられ、演説と演出の天才的才能によって国民の絶大な支持を受けたイケメンが政権を取り、経済を回復させた。また大規模な軍拡を背景に大国と渡り合い、国民が望むことほとんどを叶え、独裁者となった。検閲法が成立し作品の取り締まりがはじまった。

ある日、同人誌で細々と漫画を売っていた漫画家のアパートを独裁者の民兵組織が取り巻いた。まさか同人誌まで取り締まるのか、元漫画家は啞然とした。いくつもの反政府団体を壊滅させた親衛隊が立ち並ぶ。そこそ漫画のキャラクターのような眼鏡っ子の親衛隊長が恭しく敬礼する。

びっくり仰天する元漫画家の前に、停車した装甲ベンツから独裁者が現れた。そして、感激の面持ちで叫んだ。

「先生、僕は先生の大ファンです」

「先生の作品は今まで検閲を受けていたのです。私たちは自由を奪われていたのです」

「なんですって？」

「資本の論理による検閲です。金銭中心の思想が真の素晴らしい作品を破壊するのです」

確かにそうかもしれない。漫画家は自分の作品に絶大な自信があった。

「先生、続編をお願いします。これからは自由です。そう、私たちは理想を追い求める自由を手にしたのです。思う存分描いてください」

独裁者は漫画家の手を力強く握った。

「真の祖国の理想のために、君も協力したまえ。今までの罪を償う機会をやるう」

漫画家が敷居をまたぐことも許されなかった大手出版社の社長が震えながら立っていた。

漫画家の作品を出版しなかった出版社は全て取り潰された。

マスコミが解体され、ジャーナリズムも無くなった。ネットも禁止された。オタクは精神障害の一種とされて矯正収容所へと入れられた。政府はあらゆる暴力的、性的、反国家的作品を発禁とした。残ったのは伝統的歴史的漫画とされた古典漫画と政府のお済付きを得た、例の漫画家の作品をはじめとした純粹祖国漫画だけだった。

漫画家たちはひたすら美しい理想の祖国や、家族愛、祖国愛を描かなければならなかった。

政府は「国民が遠ざけていた残酷な世界、残酷な現実を直視しなければならぬ」とし18歳以上は犯罪現場の後や海外の戦場、死刑を観覧しなければならぬこととなり、社会人には死刑の補助が義務付けられた。18歳で男女を問わず徴兵され、また徴兵が終わるとすぐに結婚しなければならぬことになった。国民はそれを受け入れた。

「祖国の今の体たらくは、弱者に甘んじた国民である国民の自らの責任である。最早、数十年に及ぶ柔弱さを克服するには過酷な環境に自らを置き、鍛えなおす他ないのだ」

国民は諸外国による軽侮、自墮落を憎み、抑圧と過酷を愛した。

「どうして、理想主義の閣下がこのようなことをなさるのでしょう」「理想というのは人の心にしかありません。過酷な現実を直視し、それを超えて、真の理想に人はたどり着くのです。先生、先生は漫画で国民全てが理想とする我が国を描き続けてください。先生の理想の中に祖国があるのです」

毒にも薬にもならない作品が多い中、漫画家の作品は確かに作家性、作品性があったし、撲滅されたはずの萌えのようなものがあり、何よりも奇跡的なことにプロパガンダ臭さがまったくなかった。もし漫画家に才能があるとすれば、保守的で説教臭く、至極当たり前すぎるような作品テーマにもかかわらず、国民、いやこの国で暮らしたことがある者なら、誰にでも、すんなりと受け入れられるような内容に見事に仕立てた点だろう。

漫画は国民的大ヒットとなった。声優と制作会社を変えてアニメ化、実写化、ノベライズ、あらゆるコンテンツとなった。独裁者は折に触れて作品を褒め称えた。抑圧的な体制の中、国民には、その漫画が救いであり、漫画家は独裁者と並んで人気があった。

領土を奪回し、貶められた地位を回復するため、祖国は戦争へと突入した。

ある陸軍の兵士は漫画に登場するキャラクターの誕生会を仲間の兵士たちと開き、その数時間後、敵と交戦して戦死した。空軍のパイロットは自分の愛機にパーソナルマークとしてキャラクターを描きエースとなり戦死した。海軍のある潜水艦はそのキャラクターのフィギュアを御神体として奉り、自らの艦と引き換えに敵空母を撃沈した。その漫画の中に描かれたキャラクターたちこそ理想の国民であり、家族であり、祖国であり、獲得すべき未来の姿であった。漫画家の筆は神がかってきた。周囲の環境が過酷であればあるほど、その漫画は感動的であり、美しくなっていた。

戦況が悪化する中、その漫画だけは発刊を続けた。しかし、ついに祖国は敗北し、独裁者は自決した。親衛隊長も殉死した。

漫画家は占領軍の支える新政府に逮捕された。

「僕は自分の作品を書きたかっただけなのに。なぜ、このようになってしまったのかわからない」

「史上最悪の独裁者のプロパガンダに加担して無反省とは。酌量の余地はない。何か申し開きはないのか」

「閣下は僕のファンでした。一番、僕の作品を読んでくれた人で、応援してくれました。他の出版社の連中のように下らない注文はあれこれつけなかった。僕に漫画を描く自由をくれました」

「判決。被告人を国家反逆罪で死刑に処す」

その漫画は、あらゆる自由の敵、言論弾圧の象徴として発禁となり、いかなる公的なメディア、そして歴史からも抹殺された。国民もあれほど熱狂した漫画を独裁者に騙されていた、と捨て、漫画家は下らないプロパガンダ作家、犯罪的作家として記憶された。

（後書き）

自由とは何か。不自由や抑圧を自由とし、自由を不自由や抑圧と感じる場合も、立場によってあるのではないだろうか。ナチスドイツの党歌の中にも「自由とパンの日が明ける」という歌詞がありました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0658w/>

国民の漫画

2011年10月7日20時26分発行